

書写	[REDACTED]	平成28年度使用教科用図書選定にかかる学校調査会調査用紙 集約結果 東京書籍
<p>1. 大阪市教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点</p> <p>各都道府県に関連する文字についての記載や、自分の地域に目をむける単元など、郷土に触れられるよう配慮されている。また、古典の名文や旧暦の月名、二十四節気の手本が用意されていたり、文字伝来の歴史や書体の歴史などにも触れていたりする点では伝統文化が尊重されている。各単元の終わりには実際に活用して創作することができ、創造性を養える。作品例を多く挙げることで書写を通して自己実現も図ることができる。3段階からなる「学習の手引き」では生徒が目的意識を持って学習できるうえ、書写テストでは、知識の確認もできるようになっている。社会生活に役立つ、絵葉書や履歴書等の書き方についてもふれられている。《⑤⑦⑧》</p>		
<p>2. 教育基本法に基づく観点</p> <p>書写の歴史が写真付きで詳しく解説されており幅広い知識が得られる。鑑賞教材に日本国内の作品が少ない点に配慮が必要であるが、日常生活に結び付く実用性の高い教材が多く、古典教材を書写する単元で伝統に触れることができる。《①②》</p>		
<p>3. 学習指導要領に基づく観点</p> <p>調べ、確かめる学習過程を通して、国語に対する認識を深めることができる。また、文字による伝達方法における書写の必要性がわかるように説明されている。特に3年生では、書写を生かした作品やその制作方法が、実際に全国各地にある石碑や看板の写真によって多数示され、身の回りの多様な文字に関心が持てるよう配慮されている。筆遣いの表現方法に擬声語を使用し、わかりやすく工夫されている。内容が多く盛り込まれているので、書写能力の育成についての指導がかえって難しいという意見もあるが、硬筆の課題が充実しているのはもちろん、ノート書き方やポスターの作り方、卒業制作など、効果的に文字を書く能力の育成に配慮されている。《①⑩》</p>		
<p>4. 外的要素に関する観点</p> <p>挿絵や写真が適切に組み込まれ、非常に親しみやすい構成である。表紙の絵は目を引くが、「書写」の教科書とはわかりづらい。学年によってカラーが分けられており見やすい。書き込みに適切な紙質である。《①③》</p>		
<p>5. 構成・配列に関する観点</p> <p>小学校での書写学習の復習から生涯にわたり様々な社会生活で役立つ内容まで順に配置されており、発達段階に配慮されている。実技の手本の分量の充実が求められるものの、書き込み教材や資料は豊富である。《①②③》</p>		
<p>6. 資料その他に関する観点</p> <p>「書」を楽しむ発展学習がコラムなどの形で用意されている。鉛筆でなぞって筆遣いを練習する内容や、常用漢字の楷書・行書が全て掲載されている巻末の「書写辞典」は自学自習の助けになる。《①②》</p>		

書写	[REDACTED]	平成28年度使用教科用図書選定にかかる学校調査会調査用紙 集約結果 学校図書
<p>1. 大阪市教育局基本条例・教育振興基本計画に基づく観点</p> <p>「書写の窓」においては著名な書道家によるコラムや発展的な内容が充実しており、書道を通じて豊かな人間性と創造性を養わせることができる。また書写を学ぶ目的がしっかりと記載されており、学ぶ意識を高めることができる。さらに、教材ごとに目標が明確に示され、その達成に向けてわかりやすく解説されているうえ、自己評価の観点を確認できる欄も設けられている。「誤りやすい筆順の漢字」の掲載も知識の確認に役立つ。指導内容と創作活動例が別に配置されているので活用しにくく、名文の書写手本等がもう少しあればなお良いが、「時代と文字」「書き文字と活字」では我が国と郷土の伝統を尊重することができるよう配慮されている。(⑤⑦⑧)</p>		
<p>2. 教育基本法に基づく観点</p> <p>コラム「時代と文字」などは文化に親しむ機会となっている。文字のみの掲載が多いが実物大の手本や篆刻体験、臨書体験の単元においては幅広い知識と教養を身に付けることができる。(①⑤)</p>		
<p>3. 学習指導要領に基づく観点</p> <p>四字熟語など国語授業と対応した内容で国語に対する認識を深めることができる。また名書に触れるといった生徒の意欲を喚起する記載が豊富で、文字に関心をもつ態度が育成できる。1年生では行書の書き方について、2年生では行書の硬筆について丁寧な記述がある。身の回りの生活に生かす教材や、学年ごとの学習内容を身につけられるような配慮がもう少しあれば、なお良い。各学年のまとめとして「作品を作ろう」という課題を設け、文字で自分の思いを伝える表現活動を設定している。一方で篆書、臨書など名書に触れる資料や難易度が高い資料は多い。(①⑤⑨⑩⑪)</p>		
<p>4. 外的要素に関する観点</p> <p>半紙原寸大の教材提示や、取りはずし可能な書き初めの手本に配慮が感じられる。また毛筆の手本が力強く整っているうえ、朱墨の表示も効果的である。和の文化を感じさせる表紙絵が魅力的である。(①②③)</p>		
<p>5. 構成・配列に関する観点</p> <p>毛筆学習の直後に書き込み欄をつけた硬筆教材を配置し、硬筆と毛筆両方の技能が習得できるようにするなど、学習課題がわかりやすい。やや解説が多いが、古典作品が豊富に紹介されており鑑賞に良い。(①②④)</p>		
<p>6. 資料その他に関する観点</p> <p>自学自習の手順が示され、達成度が明確になるよう配慮されている。常用漢字の一覧表は行書のみ提示なので、楷書との比較において配慮が必要だが、書き込める箇所が多く使いやすい。(①②)</p>		

書写	[REDACTED]	平成28年度使用教科用図書選定にかかる学校調査会調査用紙 集約結果 三省堂
<p>1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点</p> <p>「書いたものを交流する」ページがよい。「生活に生かそう」では、本の紹介や卒業冊子など、学校行事や日常生活に生かせる内容となっている。古典の書や詩歌を適宜紹介するとともに、毛筆用具の製法なども取り上げ、伝統的な文字文化に触れることができる。硬筆の分量や、縦開き・横開きが混在していることなどに配慮が必要であるが、模範となる字と生徒がつい書いてしまう字を並べることで、正しい書き方を意識できるようになっている。各単元に設けられた「学習のまとめ」ではそれまでに学習した書写技能ごとに硬筆文字につなげる課題が設定されており学習を深めることができる。《⑤⑦⑧⑩》</p>		
<p>2. 教育基本法に基づく観点</p> <p>古典の書や詩歌、毛筆用具の製法等、伝統的な文字文化に触れることができる。また、字形例を見ずに書く活動は、生徒自身が書いた文字と向き合え、「書体を使い分けよう」でも、個人の価値や感性を尊重する配慮がなされている。《②⑤》</p>		
<p>3. 学習指導要領に基づく観点</p> <p>学んだ事項を練習しながら身に付けられるように、また「学習のふりかえり」で確認ができるように配慮されている。さらに、その学習を生かして実生活や中学校生活に生かす例が紹介され、生徒の主体的な創作活動につなげることができる。書き込み教材や書体の説明、および1年生では日常生活に関わる内容について工夫が必要であるが、特に、「書体を使い分け」単元では、メモや報告文など用途によって書体を考えさせる内容となっていることや、教科書最後の資料編では、手紙や原稿用紙の書き方が詳しくまとめられており、文字をいかに美しく書くかを発展的に考えさせる課題が盛り込まれている。また、いろは歌のところに、楷書・行書・草書の3種類が書かれており、配慮がなされている。《⑬》</p>		
<p>4. 外的要素に関する観点</p> <p>左ページに毛筆字形例を配置しており、机の左側に置いて手本にするときの工夫がなされている。漫画等の挿絵が多く、親しみやすさがあるが、教科書らしさという点に課題がある。色遣いや扉ページの手漉き和紙デザインが美しく、製本も堅牢である。《①③》</p>		
<p>5. 構成・配列に関する観点</p> <p>3年間の書写学習を見通し、適宜振り返りながらの学習を可能にしている。手本に、補助的な説明などがさらになお良いことや、文字の練習欄が小さいことが課題であるが、生活の中での実例や、用具・用途の違いなどの説明がありわかりやすい。《①②③》</p>		
<p>6. 資料その他に関する観点</p> <p>「三年間で学んだ書写技能」等まとめのページが用意されている。実生活でよく使われる筆ペンやフェルトペンの使い方も示されている。さまざまな年代の著名人を引用し、卒業後も豊かな文字生活を実現できるように配慮されている。《①②》</p>		

書写	[REDACTED]	平成28年度使用教科用図書選定にかかる学校調査会調査用紙 集約結果 教育出版
1. 大阪市教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点		
芥川龍之介や宮沢賢治の自筆の原稿やメモを掲載しているところや、「竹取物語」や「金子みすゞ」の詩を書かせる内容など、これまでの日本文化に触れさせることができるものとなっている。さまざまなコラムが用意されており、豊かな人間性と創造性を養うことができる。大阪にかかわりのある人名・地名・文化等の教材が多く用意されている。創作活動の紹介が後半に集められているのが課題であるが、各単元の構成が3段階に分けられており、学習の内容や手順を明確にして、生徒が意欲的、主体的に学習できる。また、写真等を多く用いて字を書くプロセスがわかりやすい。行書の導入においては、解説図版を掲載するなどの工夫がある。《⑤⑦⑧》		
2. 教育基本法に基づく観点		
古典の学習と関連させた内容や、十二支や文字の変遷、仮名の成立等についても触れており、伝統と文化を尊重する心や幅広い知識を身に付けさせることができる。手紙の書き方や活字デザイナーの紹介など、職業や生活との関連も重視されている。《①②⑤》		
3. 学習指導要領に基づく観点		
単元ごとに「考えよう」という項目があり、思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにするよう配慮されている。学年の発達段階に応じて、目的に合わせて書くことを意識させた細かな内容が示されている。硬筆の課題や手本の数が少ないことが課題であるが、1年生では、筆を持つ際のルールだけでなく、後片付けについてまで写真を用いて示されている。また、2年生では行書の作品が多く取り上げられており、中でも短歌の墨継ぎ位置など細かな点まで示されている。3年生ではいろいろな筆記具を用いた活用について示されており、生徒が目的に沿って効果的に文字を書く能力をはぐくめるよう配慮された内容となっている。《①⑯》		
4. 外的要素に関する観点		
シンプルで上品な装丁。図版も鮮明で、二色の薄墨による解説図版に工夫が見られる。行間に余裕のない箇所があるのが課題だが、筆の動きが実際の筆のイラストで説明されているなど、説明がわかりやすく豊富である。《①②③》		
5. 構成・配列に関する観点		
毛筆手本は右頁に、解説は左頁にまとめられているため、見開きで学習しやすい。鑑賞材としての古典作品に分量的な課題があるが、社会生活に活かされている様々な文字の書き方の例が豊富である。《①②③④》		
6. 資料その他に関する観点		
身近な建築物の文字が紹介されているなど生徒の興味を引く工夫がある。「書式の教室」では、生活に必要な例を取り扱う教材が提示されている。「選択課題」「補充教材」を設け、個に応じた学習に対応している。《①②》		

1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点

生徒が日常で活用できる国語的な知識も豊富に掲載されており、学力の向上に配慮されている。また、一部、発色について課題があるものの、文字の特徴や書き方のポイントを生徒自ら発見する活動が設けられ、生徒たちが主体的に考え理解を深められるよう工夫されている。また行書においては、その特徴を4つに分けて教材化し、「行書の練習」で深められるよう工夫されている。コラム「手書きの力」等では豊かな人間性と創造性を養える。文字伝来の歴史や宣伝広告の書体の歴史など伝統文化に触れることができる。楷書教材や古典の名文の書写手本について量的な課題があるものの、多方面にわたる事例が多く親しみやすい。《⑤⑦⑧⑩》

2. 教育基本法に基づく観点

「基礎編」「学習編」で学びを定着させることができる。日本の三蹟、三筆の例など資料の分量に工夫を要するものの、道具の歴史の紹介や、かなの丁寧な指導が伝統文化の尊重に役立つ。《①⑤》

3. 学習指導要領に基づく観点

各単元が基礎基本の習得、身に付けた力の活用(確認)、学習の発展(応用)、自己評価という学習過程で構成され、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができる。また楷書から行書に至る学習の流れも楷書と行書の対比を取り入れ、筆脈をなぞり書きするなどの活動などを入れてつかみやすく構成されている。全体として硬筆・毛筆の教材量や1・2年生における日常生活で生かす例示の分量を充実させるよう工夫が求められるものの、行書手本にある補助線や、筆遣いを示す写真など、視覚的にも理解できるように工夫されている。さらに、資料編には手紙や熨斗袋、願書などの書き方や注意点が掲載されており、日常生活において書写で学習したことを生かすことができる。《①⑤》

4. 外的要素に関する観点

挿絵や写真が適切に組み込まれ、非常に親しみやすい構成である。斬新さについて評価は分かれるものの、表紙の絵が目を引き、また学年によってカラーが分けられており見やすい。書き込みにも適切な紙質である。《①③》

5. 構成・配列に関する観点

小学校での書写学習の復習から生涯にわたり様々な社会生活で役立つ内容まで順に取り上げられており、発達段階に配慮されている。実技の手本の分量の充実に工夫が求められるものの、書き込み教材や資料は豊富である。《①②③》

6. 資料その他に関する観点

「書」を楽しむ発展学習がコラムなどの形で用意されている。鉛筆でなぞって筆遣いを練習する内容や、常用漢字の楷書・行書が全て掲載されている巻末の「書写辞典」は自学自習の助けになる。《①②》